

高気圧酸素カプセル提案書

リラクゼーションの最先端

- ① 導入実績
P2
- ② 高気圧酸素カプセルとは
P3～P7
- ③ 導入具体例等
P8

O2capsule



株式会社タイムワールド





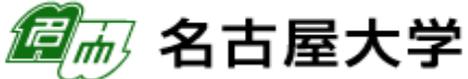
○ O2カプセル・ボックス
○ 導入実績・研究実績



O2カプセルは、性能面・安全性・信頼性により、多くの企業・団体に導入されています。



話題性だけではないO2カプセル。



累計1,300台程、市場に供給しています。

数あるメーカーの中で大手企業に選んでいただける理由があります。



・医療機器メーカーとの共同開発で、二重三重の安全性を確保。



・各学術機関に於ける豊富な臨床データを取得。



・直営店舗の展開により、酸素ビジネスのノウハウの充実。



酸素カプセルがTVやマスコミで話題になっています。

ベッカムカプセル、O2カプセルともよばれる酸素カプセル。酸素カプセルは2002年W杯直前に左足甲を骨折をしたベッカムが、酸素カプセルに入って早期回復を果たし、見事活躍した事がマスコミで報じられて以来、酸素カプセルは「ベッカムカプセル」と呼ばれ、その認知度が一気に広がりました。酸素カプセルは、その後も多くのアスリートに利用され、2006年の夏の甲子園で人気急上昇した、早稲田実業のハンカチ王子こと齊藤佑樹選手も酸素カプセルを利用していた事もあり、その人気と知名度が広く一般的に定着しました。

現在は有名プロアスリートをはじめ、多くの人が酸素カプセルを利用しています。



有名医学者の酸素に関する発言

(わずか100年前の空气中酸素濃度は 約24% → 現代の酸素濃度は 20.9%)

- 野口英世(医学博士)
「すべての病気は酸素の欠乏症である」
- 浅野牧茂(国立公衆衛生院室長)
「酸素は血行をよくする働きがあり、動脈硬化を予防する」
- 菊池長徳(東京女子医科大学助教授)
「高血圧の予防と改善に酸素は著しい効果がある」
- 谷本晋一(虎ノ門病院・呼吸器科部長)
「喘息や疲労回復に酸素は著しい効果を与える」
- 吉藤高良(筑波大学教授)
「酸素を十分に取り入れれば、肺機能を向上させる」
- 小山内博(元・労働科学研究所所長)
「ガン細胞は酸素が不足した細胞に増殖、脳卒中・心臓病・動脈硬化・肝臓病・子宮筋腫などの成人病も酸素不足が最大の原因である」
- オット・ワールド(ドイツ・ノーベル医学賞受賞)
「ガンの原因は酸素の不足による」
- ワール・ブルグ(ドイツ・ノーベル医学賞受賞)
「ガンの発生原因は酸素の欠乏症による」
- ヘンダーソン博士(コロンビア大学教授)
「ガンは一酸化炭素の中毒が原因である」
- ラオール・エストリボー(フランス・医学博士)
「各種疾病の原因について個別的に研究してみれば、これら一切の疾病が一酸化炭素という毒素に原因することが知られるであろう」

酸素の効果

酸素の力で若さを取り戻す、疲労回復や美肌など様々な効果が期待できる

酸素について、東京大学・東京医科歯科大学・筑波大学・名古屋大学・京都大学
群馬大学など、高等学府において臨床試験や研究が行われています。

効果性

●ダイエット

高濃度の酸素を吸引することにより脂肪燃焼機能が上がり、有酸素運動の同等以上の効用が得られます。

●美肌・アンチエイジング

細胞のすみずみまで酸素がゆきわたり、細胞の新陳代謝が高まり、みずみずしい艶と張りのある肌を保ちます。

●疲労回復

「酸素」は疲労の原因となる血中の乳酸を分解します。

●二日酔い防止・回復

「酸素」は血中のアルコールやアセトアルデヒドを分解します。

●生活習慣病

体内の活性酸素の増加を抑えることで、生活習慣病予防も期待できます。

(全ての病気の原因は酸素不足が原因である。ー 野口英世博士)

●ケガの患部には「酸素」が必要です。

筋肉や靭帯の損傷、骨折後の炎症期から修復期において患部の細胞は大量の「酸素」を必要とします。

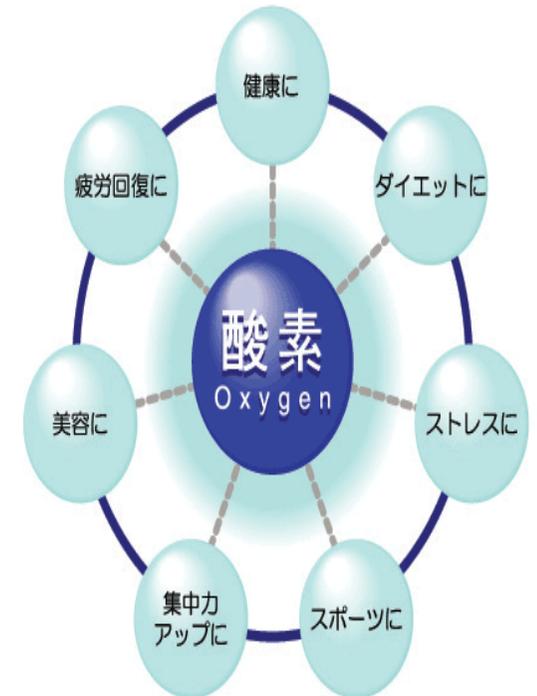
●集中力アップ

脳は、体の中でいちばん「酸素」を必要とする器官です。吸引された「酸素」のおおよそ25%は脳に供給されます。

●首、肩、腰などのコリと痛みに

十分な酸素供給による血流の改善でマッサージの効果が長時間持続します。

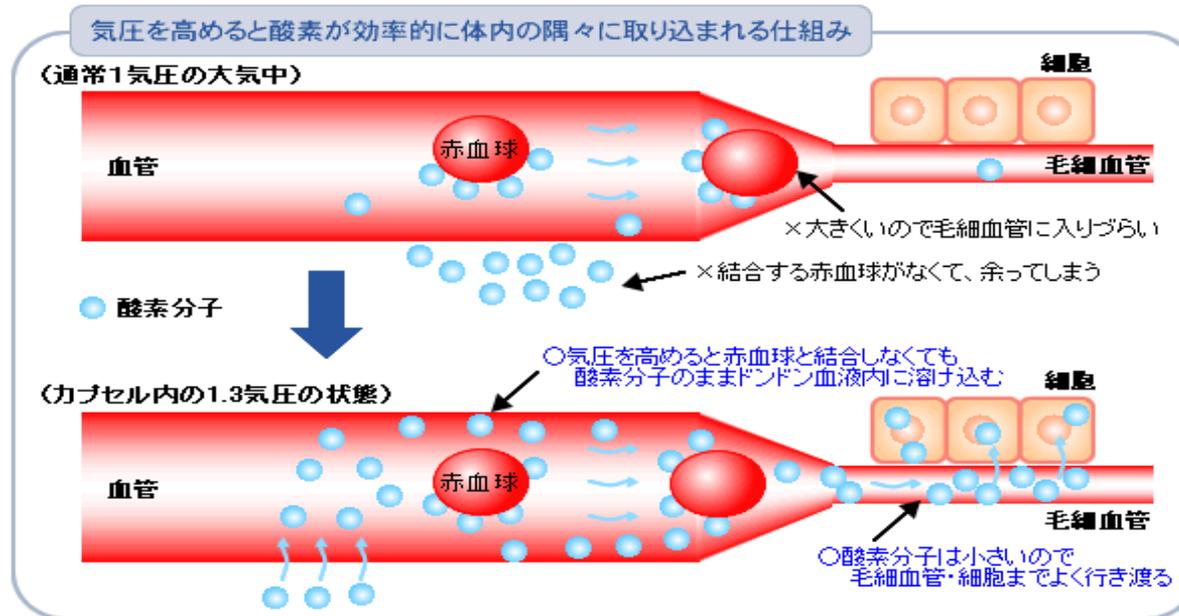
などなど、さまざまです。



医学的側面(1)

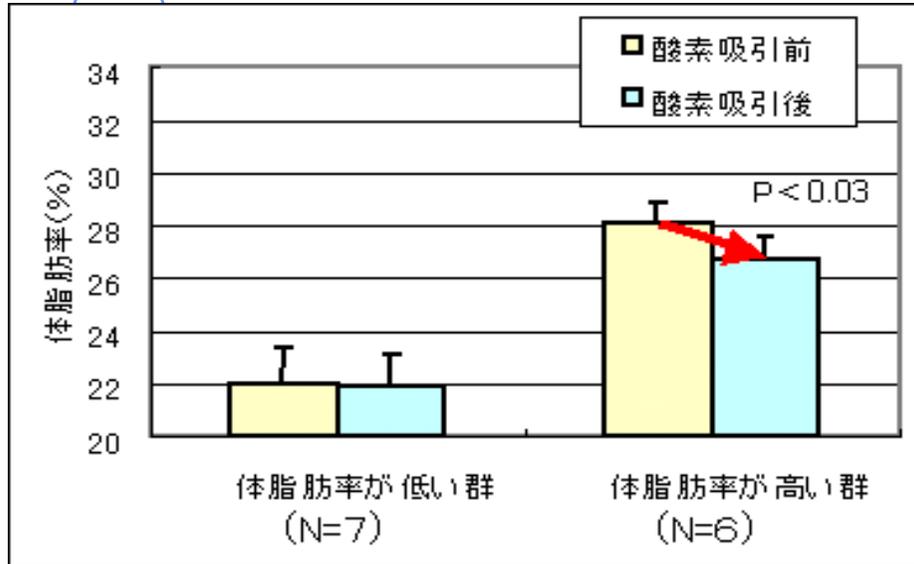
高気圧エアチェンバーカプセル「O₂カプセル」は、地上における大気圧の1.3倍の気圧に設定したカプセルに入ることにより、血液に溶ける「溶解型酸素」を増やします。通常の、赤血球のヘモグロビンと結合して体中に運ばれる結合型酸素と違い、この溶解型酸素は分子のまま血液に溶けるので、直径が大きい結合型酸素がなかなか行き渡りにくい毛細血管の隅々にまで酸素が行き渡るのです。

酸素バーにある鼻から酸素を吸うタイプは、気圧は高めずに、30%前後の高濃度酸素(通常の大気中の酸素は約21%)を吸うシステムで、酸素分子は多く体に吸い込まれますが、気圧が大気中と変わらないため、それらの多くは溶解型酸素ではなく、あくまでヘモグロビンと結合することで血液中を移動する結合型酸素です。ただし、ヘモグロビンの量は限りがあるので、ヘモグロビンと結合できる酸素の量は限られます。高気圧酸素カプセルは、ヘモグロビンと結合しなくても、血液に分子のまま直接溶けるので、効果的に血液中に運ばれるという仕組みで、そこが一番大きな違いです。

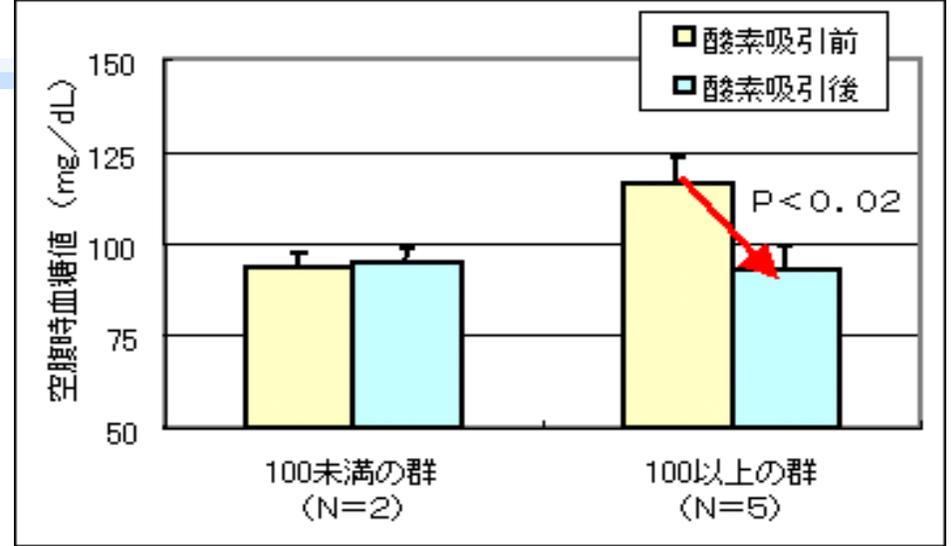


医学的側面(2)

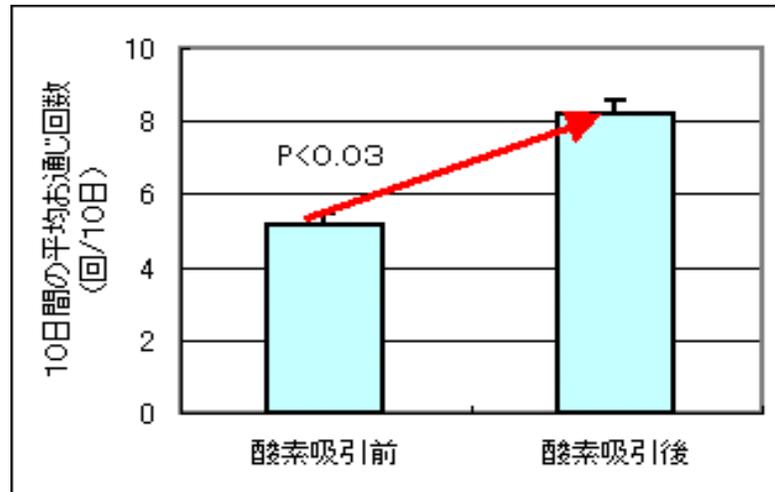
衛生工学学術講演会(2004年9月)



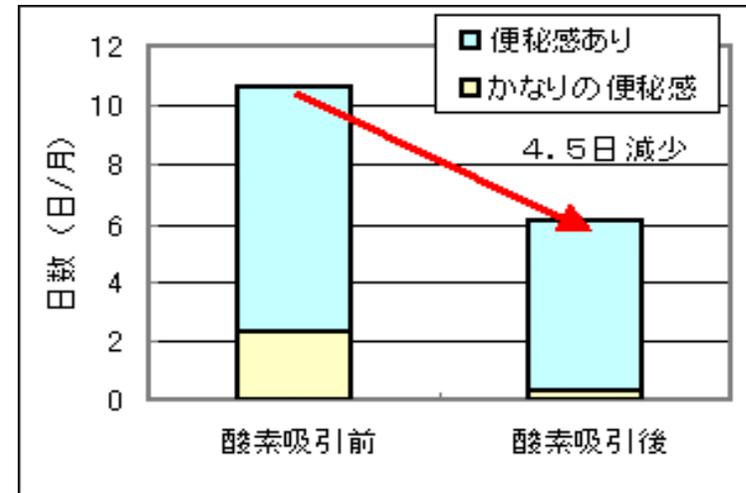
1ヶ月の高濃度酸素吸引による体脂肪率の減少効果



高濃度酸素の吸引による血糖値の改善効果



便秘気味の被験者における平均お通じ回数 (N=10)



便秘気味の被験者における主観申告 (N=10)

導入具体例

- 家庭用・個人用
疲労回復・コンディション調整
- ビジネス(営業)目的
酸素を用いた店舗経営
⇒ マッサージ、整骨院、サロン、スポーツ施設
- 福利厚生目的
従業員・オーナー様の疲労回復
- 学習・進学効率化
集中力・記憶力促進による、勉強との組み合わせ
- スポーツ、フィットネスクラブとの組み合わせ
疲労回復・乳酸値低下・筋肉痛緩和・ダイエット

